

2020年度

社会福祉法人ときわ会事業報告

2021年6月1日

社会福祉法人ときわ会

理事長 加藤 寛二

I はじめに

今年度は、コロナ感染症の影響で事業運営・地域活動で大きな制約を受けた1年でした。事業運営では、日常的に発熱等の対応や消毒等で職員の負担は増え、仕事の面では受注作業が激減し、作業所商品の販売先がなくなるなどの影響が出ました。コロナの不安もあって通所を控える人もいるなかで作業所の収入が大きく減った事業所もあります。地域活動では、地域に定着しているアートフェスティバル、わいわいバザール、サマースクールなどを中止にしました。地域の人が支援してくれている毎月の廃品回収も緊急事態宣言が出され、実施できたのは6か月のみでした。利用者の生活を守るため作業所を開き続けてきていますが、そのための感染予防対策は限られ、障害者施設の基盤の弱さを痛感した年でもあります。

法人の組織運営については、理事協議会、施設長会、主任会議を定期的に開催し、日常の法人運営を担ってきました。職員数が132名になり、年齢、経験など多様な職員構成になっているなかで、さまざまな問題や課題がありますが、組織体制の整備も考えながら来年度以降取り組んでいく必要があります。

II 事業

(1) 障害者福祉サービス事業の経営

※現員は2021年3月31日現在

	<u>定員と現員</u>	<u>年間通所率</u>	<u>年間開所日数</u>
		(定員に対する通所率)	
○生活介護事業			
あさやけ作業所	50名／55名	84.1%	239日
あさやけ風の作業所	40名／44名	89.0%	241日
○労継続支援B型			
あさやけ第二作業所	40名／58名	67.4%	247日
サングリーン	30名／37名	64.1%	249日
あさやけ鷹の台作業所	30名／28名	80.0%	234日
○就労移行支援			
サングリーン	6名／0名	11.3%	249日
○共同生活援助	<u>入居定員</u>	<u>入居率</u>	
共同ホームつくしんぼ	5名	100%	
共同ホームサンライズ(通過型)	7名	100%	
共同ホームこげら	5名	100%	

共同ホーム一歩	10名	100%
共同ホームはやぶさ	7名	100%
共同ホームさらさ	6名	100%
(2) 一般相談支援事業の経営	電話や面接で生活相談を受ける。	
2020年度実績	<u>年間件数</u>	<u>1日平均利用者数</u>
電話相談	9,522名	32.4名
面接相談	2,157名	7.3名

(3) 特定相談支援事業の経営

サービス等利用計画 2020年度の実績 252名

(4) 地域活動支援センターの経営

交流室（交流スペース）で、利用者どうしでおしゃべりやゲーム、のんびり過ごすなど、各々が自由に過ごす空間。食事会やメンバーミーティング、女子会などのプログラムを行っている。

2020年度の年間利用者数 4,311名（1日平均 17.5名）

上記(2)(3)(4)の事業は地域生活支援センターあさやけが運営

<資料>

● 2020年度各事業所の平均月額工賃額

	あさやけ	第二	サングリーン	鷹の台	風
平均月額工賃	4,450円	16,000円	12,805円	11,682円	5,400円

Ⅲ 理事会・評議員会の開催

○理事会

	開催日	議案
第1回	2020年6月2日	1. 2018年度事業報告案の承認 2. 2018年度決算報告案の承認 3. 定款変更の承認 4. 給与規定改正の承認 5. 各事業所の管理運営規定改正の承認 6. 定時評議員会の招集の件
第2回	2020年10月6日	1. 第一次補正予算の承認 2. 育児介護休業等に関する規則の改定の承認
第3回	2021年3月26日	1. 第二次補正予算の承認 2. 2021年度事業計画の承認 3. 2021年度予算の承認 4. 上水南町作業所(仮称)事業計画の承認 5. 設計業者の選定の承認 6. 福祉貸付金借入の承認 7. 役員改選と次期役員候補者について

○評議員会

	開催日	議案
第1回	2020年6月22日	1. 2019年度計算書類及び財産目録の承認 2. 2019年度事業報告案の承認 3. 定款変更の承認

○評議員選任・解任委員会 今年度開催はなし。

○理事協議会 構成員／加藤理事長、田邊、遠山、松本、庄司、中川
法人の業務を進めるための協議・相談をする場として月一回開催してきた。
主な協議事項／コロナ感染対応、新施設建設関係、サングリーンとの建替え
次年度の法人・事業所運営、職員人事など

IV 組織運営

(1) 新人職員研修の実施

昨年に続いて新人職員研修を行った。研修内容は下記のとおり。

日 程	研修内容
4月1日(水)	法人の組織と事業内容の説明／事業所訪問
9月28日(月)	1 ときわ会のあゆみと地域との関わり
	2 障害福祉に関わる情勢動向
9月29日(火)	3 知的障害分野のとりくみ
	4 精神障害分野のとりくみ
10月7日(水)	5 グループホームの実践
	6 あさやけの文化活動 創作
10月14日(水)	相談支援とはなにか
10月21日(水)	家族の立場から
3月	研修のまとめ

(2) 規程の改正と規程集の発行について

①給与規程の改正

第一回理事会であらたな手当として夜勤手当を加える。

②管理運営規程の変更

第一回理事会で、就労継続支援B型及び生活介護の管理運営規程に第15条として在宅支援を加える。

③育児・介護休業等に関する規則の改正

第二回理事会で、育児休業延長期間の延長及び育児・介護休業をすべての労働者が取得できるよう改正

④社会福祉法人ときわ会規程集の発行

12月に全職員に配布した。

(3) 福祉・介護職員等特定改善加算について

2020年度の実績／ a. 経験・技能のある障害福祉人材28名、月額改善額22,700円

その他制度対象外の職員7名について同額を自己財源で支給。

(4) 時間外労働について

36協定を締結して、4月から事前に残業申請書を提出し管理者の承認を得た時間外労働に対して残業手当を支給することにした。

(5) 小平市の社会福祉法人一般監査が10月22日に実施された。

文書指摘は運営・事業で4点、会計で2点あった。12月10日付で改善状況報告書を提出した。

V 職員関係

(1) 職員関係

- ①採用 5名 (配属先/あさやけ作業所2名、あさやけ風の作業所、地域生活支援センターあさやけ、共同ホームはやぶさ)
- ②産休育休取得者 2名 (あさやけ作業所、あさやけ風の作業所)
- ③介護休業取得者 1名 (サングリーン)
- ④傷病休暇取得者 1名 (あさやけ風の作業所)
- ⑥退職者 2名 (あさやけ風の作業所在籍2年、共同ホームはやぶさ在籍35年、共同ホームこげら在籍25年)

(2) 職員の状況 (2021年4月現在)

①職員総数 132名 (正職員・準職員84名、日給・時給職員48名)

②正職員と準職員の年齢構成と在職年数

在職年数	20代	30代	40代	50代	60代	計
～5年	9	6	5	9	2	31
6年～10年	1	9	5	5	1	21
11年～15年	0	2	2	1	1	6
16年～20年	0	1	7	0	1	9
21年～25年	0	0	1	2	1	4
26年～30年	0	0	0	3	1	4
31年～35年	0	0	0	3	0	3
36年～41年	0	0	0	1	5	6
	10	18	20	24	12	84

※40歳未満の職員33.3%、在職5年未満の職員36.9%

VI 主要事項の報告

(1) 新型コロナウイルス感染症の対応について

2020年4月7日に緊急事態宣言が出された以降の法人の対応

① 4月8日(木)発令後の対応を協議するため臨時施設長会議を開催。

日中活動や生活を守っていく立場で対応していくことを確認して、職員の感染予防・感染者が疑われる人が出た場合の作業所及びホームの閉所・特別休暇・パート職員の賃金補償などについて協議した。

- ② 新型コロナウイルス感染対応マニュアルを作成 4月16日
マニュアルに基づいて、理事長を本部長とする感染対策本部を立ち上げる。
→感染の広がり等に対応するためマニュアルを「新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画」にする。
- ③ あさやけ鷹の台作業所で感染者の発生時の対応について
1月8日（金）夜、職員の感染が判明。翌日、感染対策本部を招集。対応として感染の疑いのある利用者、職員に対して、自費でのPCR検査を受けてもらうようにする。作業所は1月12日から1月20日閉所とした。
- ④ 小平市のPCR検査費用補助金を活用して、PCR検査ができるよう 3月はじめに一般財団法人東京保健会病体生理研究所とPCR検査の契約をする。その後、利用者・職員に疑いがある場合には、速やかに検査をするよう対応している。

(2) 通所施設の建設及び施設整備

①新施設建設の取り組みの主な動き

- 6月末に東京都に補助協議書提出
- 建築計画のお知らせを近隣に配布
- 3月26日の理事会で上水南町作業所（仮称）事業計画を承認
新施設建設委員会で事業種目（就労継続支援B型・就労移行支援）、作業内容、職員配置、設備基準、資金収支見込、資金計画等を討議し、事業計画として提案。
- 4月1日付で補助内示

（仮称）上水南町作業所の資金計画

支出	金額	収入	金額
施設整備費	98,941,000	国・都補助金	65,257,000
用地購入費	32,000,000	福祉医療機構借入金	30,000,000
設計管理費	6,240,000	法人自己資金	52,218,000
運転資金、法人事務費等	10,294,000		
合計	147,475,000	合計	147,475,000

②サングリーンの建替えの検討

家主との協議は継続し、建物が都市計画道路上にあること、補助金取得の可能性、建替えの方法、修繕対応などについて検討してきたが、方向性は定まっていない。

(2) 暮らしの場の取り組み

①共同ホームこげらを一步のユニットに変更

2ホームが連携して運営することを考え、こげらを8月1日から一步のユニットに変更した。連携と言っても、それぞれが長い歴史を持っているので難しい面もある。それぞれのホームの運営体制が確立していくなかで、お互いに補うあうことや緊急なときに助け合うなどの連携を進めていくことがこれからの課題といえる。

②共同ホーム一步の厨房改修工事

調理しやすい空間にすることや出来たものを置く場所がないことなどを改善するために厨房の全面改修工事を11月に実施した。工事期間中の食事提供はお弁当。

③食中毒発生による給食の供給停止命令（共同ホーム一步）

12月12日入居者数名が嘔吐や体調不調になる。小平保健所に連絡し、細菌検査を実施してもらい、調理従事者からノロウイルスが検出された。12月21日から26日までの6日間の給食の供給停止が命ぜられた。再発防止のため、保健所の指導を受けて防止対策を進め、もと再発防止のための対策をとり、関係者参加の食中毒講習会を受けた。

④グループホーム建設に向けて

これまであさやけ作業所とあさやけ風の作業所の父母会とのグループホーム懇談会を行って要望等を聞いてきた。今年はホーム建設の具体化を進めた形にしたいと考えてきたが、11月に懇談会を行ったのみで、コロナ感染症の影響もあり十分な取り組みができなかった。父母会のホーム新しいホーム建設の要望・期待は高いので、来年度の課題としたい。

<資料> ○ときわ会ホームの概要（2021年4月1日現在）

	サンライズ	つくしんぼ	はやぶさ	さらさ	こげら	一步
開設年	1988年	1992年	2014年	2017年	1995年	2001年
主たる対象者	精神	知的	知的	知的	知的	身体
入居者数	7人	5人	7人	6人	5人	10人
正規・準職員数	1人	2人	5人	4人	2人	6人
その他の職員	2人	1人	0人	4人	3人	14人
夜間支援の有無	無	無	有	有	無	有
建物所有形態	賃貸	賃貸	賃貸	法人所有	賃貸	賃貸
建物区分	一戸建て	一戸建て	一戸建て	一戸建て	アパート	一戸建て

VII 2020年度の研修・地域活動等の取り組み

わいわいバザール、あさやけサマースクールなどの地域活動は、コロナ禍のなかですべて中止とした。

(1) 2020年社会福祉法人ときわ会実践交流会の開催

日時／12月12日（土）午前10時20分～午後16時30分

会場／ルネこだいら中ホール

テーマ 障害のある人の意思決定支援を考える②

講演 障害のある人の意思決定支援～知的・発達障害を中心に～

又村あおい氏（全国手をつなぐ育成会連合会 常務理事）

実践報告 あさやけ第二作業所、共同ホームはやぶさ、あさやけ鷹の台作業所
地域生活支援センターあさやけ

共同ホーム一步、あさやけ作業所

アドバイザー 立正大学社会福祉学部社会福祉学科准教授 児嶋芳郎 氏

2020年度あさやけ作業所事業報告

I はじめに

4月7日の緊急非常事態宣言からはじまって、この1年間は新型コロナウイルス感染症の対応に追われた年だった。マスク、検温、換気など基本的な感染予防に努めたが、まだ感染症のことがわからず、不安の中での作業所の対応でした。これまでの生活を守るためには、毎日作業所に通ってくるのが大切と考えました。毎年楽しみな旅行もギリギリまで可能性を追求しましたが、最終的に断念しました。代わりに皆が楽しめる企画として「熱気球」を計画し、準備しましたがこちらも出来ませんでした。すべての行事が中止になりました。澄水園から通所してくる人たちは、4月上旬に園からの外出禁止が出され、結局1年間あさやけに通ってくる事ができませんでした。感染を心配して通所を控えた人もいましたが、1回目の宣言後は、ほとんどの人が毎日通所してくるようになりました。

4月に作業班の職員が変更になったこともあり、職員会議では不安も含めていろいろな意見が出されましたが、大きな問題もなくあたらしい体制に移行しました。そのなかで利用者のことは班の職員だけでなく、全職員で支援していくのが大切との意見もあり、職員間の連携を高めることにつながっていきました。現場会議、健康会議を定期的に関き、考えや思いを全体で共有できる機会を大切にしてきました。

II 利用者支援

1 新型コロナウイルスに対応について

- ・新型コロナウイルス感染症発生時における業務継続計画にもとづいて、感染が疑われる利用者が発生した場合の対応や連絡体制等を整備した。
- ・検温、手指消毒、作業所内の換気・消毒、送迎車両消毒などの感染予防対策の実施
- ・昼食時の蜜をさけるため、食堂の他に、1階の作業室でも給食を取れるようにした。
- ・澄水園が外出禁止になったので、園の職員と連絡をとってリモートで面談した。
- ・在宅支援を利用して、通所できない人に対して家庭に電話して様子を伺った。

2 労働活動

作業班の状況

	利用者	担当職員	主な作業・活動内容
コアラ	10	青木、内藤	台所用ふきん、和小物縫製
しろくま	21	松本、廣瀬、鈴木、藤田、濱崎、浅浦	機械部品ネジ入れ、ダイレクトメール
あんず	8	木藤、佐々木、阿部	パン・焼菓子製造・販売
うぐいす	16	増田、小山、重松、野口、谷、高木	雑貨品梱包

コロナ禍の影響で、販売先がなく製品売上が減少し、下請け作業も大きく減少した。それでも各班で販売方法の工夫や仕事確保に努力して、仕事に向き合ってきた1年だった。

- ・あんず班 販売先が減った中、父母や関係施設、地域の方々に積極的に働きかけ、何とか焼き菓子やパン製造を続けられた。新しく夏冬の物品販売に「あんず班焼き菓子セット」を出品し、115箱の注文があった。
- ・うぐいす班 コロナのマスク需要でマスクの点検・再包装の仕事が大量に入ってきた。利用者には仕事がある安心感につながり、ほぼすべての利用者に関わるこ

とができやりがいにつながった。

- ・こあら班 販売する機会が減り苦戦したが、和ふきん2枚組販売や季節企画品などを工夫して売り上げ増につながった。村田建設の大量注文や新日本婦人の会が販売に取り組んでくれて、和ふきん売り上げを大きく伸ばした。
- ・しろくま班 コロナの影響で下請けのダイレクメールは激減した。売り上げが落ちた一方で、これまで決まった作業しかやらなかった人に新たな作業を提示し、仕事に繋げることができた。

2 健康を維持する取り組み

- (1) 健康診断 感染予防のため中止。
- (2) 口腔ケア 昼休みの歯磨きの推進。歯科衛生士による月二回のケアを継続
- (3) 健康・服薬ファイルの作成、災害時のための薬の預かりの実施。(5日分)
- (4) リハビリ 東京小児療育病院のPT、OTによるリハビリを実施。
- (5) 保健だよりの発行 今年度は5号発行した。
- (6) 健康会議 月一回定期的に開催したことにより、健康医療に関する情報を交換・共有できたとともに、コロナ対策においても有効だった。
- (7) 救命講習会の実施 二回に分けて実施し、全職員が受けた。

3 作業所でのくらし

- (1) クラブ活動 毎週水曜日の午後 ウォーキング、カラオケ、絵画のクラブ、月一回「体を動かす」ことを目標に体操を行った。
- (2) 旅行 中止
- (3) ボーナスのとりくみ 中止
- (4) 季節行事 忘年会、成人・還暦を祝う会、あしたの会主催誕生会も基本的に中止。
- (5) お楽しみクラブ 10/31昭和記念公園散策

4 給食 <年間給食数> 年間食材費 4,741,454円(1食の単価319円)

	日数	利用者	職員	その他	合計
4月	21	846	409	11	1266
5月	18	704	356	15	1075
6月	22	915	444	21	1380
7月	21	870	436	36	1342
8月	18	734	344	58	1136
9月	20	813	388	62	1263
10月	22	906	451	60	1417
11月	19	765	392	19	1176
12月	20	760	403	19	1182
1月	18	706	368	23	1097
2月	18	733	363	28	1124
3月	23	924	442	26	1392
年合計	240	9676	4796	378	14850

月平均	20	806.3	399.6	31.5	1237.5
日平均		40.3	19.9	1.5	61.8

Ⅲ 運営

1 利用者の状況

(1) 利用実績報告

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実績人数〔月〕	876	740	942	894	752	834	956	791	801	746	761	961
実績人数〔日〕	41.7	41.1	42.8	42.5	41.7	41.7	41.5	41.6	40.0	41.4	42.2	41.7
開所日数	21	18	22	21	18	20	23	19	20	18	18	23
契約者数	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
通所率	75.8	74.7	77.8	77.4	75.9	75.8	75.5	75.6	72.8	75.3	76.8	75.9

- ・年間利用人数10,054名（昨年比1,332名減） ・ 1日の平均人数 41.7名（昨年47.8名）
- ・年間開所日数 241日 ・年間通所率 75.8%（定員に対する通所率83.4%）

*澄水園 コロナの感染防止のため2020年4月14日から2021年3月31日まで外出禁止

(2) 居住等の状況（2021年3月31日現在）

ア. 利用者居住地域（給付費請求先）

小平市29、東村山市10、東大和市4、東久留米市2、府中市1、西東京市1、
清瀬市1、小金井市1、武蔵村山市1、国分寺市2、所沢市1、江戸川区1、品川区1

イ. 生活形態 自宅26名、グループホーム20名、入所施設8名

(3) 2020年度入所、退所状況 入所者・退所者／なし

(4) 送迎状況（2021年3月31日現在）

- ・コース ①澄水園・東大和 ②学園・花小金井 ③はやぶさ・澄水園 ④滝山・八坂
⑤府中 ⑥こげら・鷹の台・小川西 ⑦東大和・東村山
- ・送迎利用人数 48名 その他7名（バス1名、徒歩2名、自転車2名、家庭2名）

(5) 年齢別状況（2021年3月31日現在）

	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	8	11	5	4	6	0	34
女	0	2	7	2	6	3	1	21
計	0	10	18	7	10	9	1	55

平均年齢 男性41.5歳 女性47.3歳 全体43.8歳

2 職員関係

- (1) 職員構成 施設長 1名（1.0） サービス管理責任者1名※生活支援員兼務
事務員 1名（1.0） 生活支援員 16名（14.5）
調理員 3名（2.5） 看護師 1名（0.6）
その他 5名（送迎運転手3名、施設清掃1名、嘱託医1名）

合計 28名

- (2) 職員の状況 ・産休、育休 鈴木 真央 2021年2月21日～

(3) 会議

- ①職員会議6回

- ②総括方針会議 中間総括会議10/3、総括会議2/6、方針会議3/6
- ③打ち合わせ 毎日原則として4:40～5:00 各班の状況とケース情報の共有
- ④現場会議毎月第二金曜日の4時～5時30分。ケース及び個別支援計画。
- (4) 研修
 - 研修会の参加 新人職員研修（浅浦）
ニュースタッフセミナー（浅浦）
人権を守るってどういうこと（青木）など
 - 作業所学習会
 - 第1回 10月23日 福祉施設職員のストレスケア 講師／関屋 光泰
 - 第2回 11月12日 高齢者・認知症の理解 講師／吾妻 正徳
 - 法人の研修 第21回実践交流会12/12 会場／ルネこだいら中ホール
- (5) 福祉サービス第三者評価の受審 なし
- 3 防災関係
 - ①立入検査なし
 - ②避難訓練避難訓練の回数2回（12/22、3/29）
 - ③消防用設備等保守点検 2021年3月12日 消防署に報告書提出3月18日
- 4 施設整備及び建物管理について
 - ① 主な施設整備、備品購入

作業室フリーザー		220,000円
作業室エアコン交換		660,000円
コピー機リース		3,253,800円
 - ②建物管理

特殊建築物定期調査報告書		報告年月日2019年12月4日
昇降機定期検査報告書		報告年月日2020年6月15日
建築設備定期検査報告書		報告年月日2020年2月19日
- 5 地域とのかかわりについて
 - (1) 特別支援学校現場実習の受入 田無特別支援学校など
 - (2) あさやけサマースクール コロナ感染症のため中止
 - (3) 福祉現場実習 ルーテル学院大学、白梅学園大学、東京家政大学
法政大学、東京学芸大学
- 7 父母会活動 父母会開催も年二回のみにとどまった。

2020年度 あさやけ第二作業所事業報告書

I はじめに

新型コロナウイルスの影響は、メンバーの不安や通所の迷い、活動内容の制限などさまざまなところに出てきている。幸い作業所内での感染はなく、発熱への対応、PCR 検査も迅速に対応できているため、実害はない。ただ、作業以外の活動がほとんど実行できなかったため、年間を通して楽しみが減ってしまっている。そんななかでも働くことへのモチベーションは各自維持できており、利用実績も大きくは下がらなかった。メンバーの意識の高さを感じる。

施設運営では、92年に導入した東都生協チラシセットが21年9月に契約終了となるため、下半期には職員間でこれまでの作業実践の振り返りを行い、次につながる議論を開始した。単純にチラシセット作業の収入の穴埋めだけを考えずに、作業の意味合いからメンバーの実態、工賃や作業の歴史を振りかえりながら、今後の第二作業所のあり方を検討してきた。継続して新年度も議論し、概ね22年度には新しい形で作業所をスタートさせたい。建物の老朽化もあるため修繕費用なども捻出しながら、新しくできる上水南町作業所(仮称)との関係もみすえて検討していきたい。

II 利用者支援

1 作業活動

(1) 基本的な作業

① 東都生協チラシ作業(職場会議、声かけグループ)

年間を通して安定した工程を踏んでおり、作業そのものに問題はない。多様化しているメンバーそれぞれの働き方で取り組んでいるが、集団としての作業能力は維持されている。声かけグループや職場会議を通じそれぞれの立場や状態をお互いに理解してもらう機会を設けてきたことが、いい影響を与えていると思われる。この作業は2021年9月を以て契約終了となる。

② 清掃作業

公園、リンガーハットの全体清掃、特定のメンバー対象の第一トイレ、食堂・厨房清掃を行っている。それぞれ目的、適性などにより、参加の頻度や内容が異なっている。自分の給料の目標を高く設定している人たちが中心的に参加している。

③ CAZECAFE なかまち

なかまちテラスの休館や利用制限のために、年間を通して低調な売り上げ、稼働に終わっている。メンバーオペレーションは大きな変化はないが、来客の少ない時間帯などは、他の作業を行い、作業の確保に努めてきた。また中心的な利用メンバーが就労したため、シフト変更などによるメンバーの動きに変化が出てくるとと思われる。ミーティングなどを通して、カフェへの帰属意識、仕事へのモチベーションを高めてきた。

④ ピクルス製造販売

イベント販売がほとんどなくなったため、作業としての取り組みが定例化されなかった。店舗への卸が定期的にあるが、メンバーへの広がりは今期は追求できなかった。

⑤ 小平市ゴミ袋取り扱い、配布業務

ゴミ袋扱いは、一部メンバーが在庫管理、販売管理を行い、不定期に活動している。この取り扱いについては、次年度以降再度メンバー作業としてのあり方を検討する。

また前年に引き続き、ゴミ袋の配布作業の委託をうけ、サングリーン、鷹の台も参加し12月より

セット作業、3月の2週間を交付事務作業を行った。感染対策を行いながら、若干不自由さはあったが、2回目ということもありスムーズに進めることができた。

- (2) 作業工賃 工賃支払い対象者延べ人数 710 人
2020 年度工賃支給総額 8,096,480 円 (2019 年度 8,476,425 円)
2020 年度平均工賃額 11,403 円 (2019 年度 15,245 円)
ボーナスの取り組み費用年間 4,500 円を含む。
支払総額、平均工賃ともに大幅に減少した。最高額(月平均) 57,406 円

2 就労支援

(1) 就労ミーティング

(2) 個別支援

就業時間に個々で差があるが、5 名が就労につながり継続している。介護補助が 2 名、施設清掃 2 名、飲食店 1 名

(3) サングリーンとの連携

現在 5 名について、定着支援を協力して行っている。今後さらに 1 名を定着支援として行う。

3 作業以外の活動

(1) お多福の会 9 名参加

作業所の利用について「通所が精いっぱい。」「安定した作業参加が難しい。」「作業をバリバリ頑張っているメンバーに対して負い目を感じる。」等の思いを抱えているメンバーにとって役割や居場所の獲得の機会、またそれを通じて自身の生活を肯定できる、充実感を得られる機会になっている。次年度も、引き続き作業とは異なった側面からの役割や居場所の提供、充足感の獲得の機会の提供を中心に活動する。

(2) クラブ活動など作業以外の取り組み

ボーナスの取り組みは費用を手当として支給したのみで、活動は行わなかった。その他の活動はすべて中止となった。

(3) すぺーすひだまり コロナ禍の中、感染予防を行いながら開催いただいた。毎回ほとんどのメンバーが参加。サングリーンは今期の参加なし。

4 生活、健康面の支援の充実

(1)健康診断 集団での検診は中止とした。看護師が継続して必要に応じて面談等で指導した。

(2)歯科検診 (3)その他 コロナ対策で BCP を法人で策定した

III 事業・運営

1 利用者の状況(2021.3.31 現在) 定員40 (第二本体30 カフェ10)

① 利用契約者 57 名(就労中 3 名、長期欠勤 1 名、入院中 1 名) 私的契約者 2 名(救護

施設) 男性 47 名、女性 10 名

② 新規利用者 6 名

③ 退所者 5 名(就労 2 名、逝去 1 名、在宅 2 名)

④ 年齢 平均 49.5 才 20 代 3 名、30 代 12 名、40 代 14 名、50 代 19 名、60 代 5 名、70 代 4 名

⑤ 在籍年数 平均 8.4 年

⑥ 居住地域 小平市 47 名、国分寺 1 名、東村山市 4 名、立川市 1 名、西東京市 1 名

府中市 1 名、所沢市 1 名、小金井市 1 名

⑦ 生活実態 家族同居 24 名、単身 25 名、グループホーム 6 名、救護施設 1 名、入院中 1 名

⑧ 障害(診断)

統合失調症圏、その他双極性障害、気分障害、強迫性障害、知的障害、てんかん、高次脳機能障害、広汎性発達障害、ADHD

⑨開所と利用実績

1 利用者の状況 定員40 (第二本体30 カフェ10)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実績人数(月)	594	562	636	547	521	564	588	555	530	485	461	621
実績人数(日)	28.2	29.5	28.9	26.0	24.8	26.8	26.7	27.8	26.5	25.5	25.6	27
開所日数	21	19	22	21	21	21	22	20	20	19	18	23
利用契約者	57	57	59	57	57	58	59	58	58	57	56	57
第二本体	51	51	53	52	52	52	52	51	51	50	50	50
カフェ	6	6	6	5	5	6	7	7	7	7	6	7

・2020 年度開所日 247 日 年間延べ利用者数 6664 人 (2018 年度 7138 人)

日実績人 26.9 人 (2018 年度 27.9 人) 私的契約者 2 名(救護施設利用)

2 給食提供 年間 7,557 食(メンバー5,423 食、職員 1940 食、その他 194 食)

3 職員

(1) 正規職員 施設長1 職業指導員4 生活支援員1 目標工賃達成指導員1

(2) 非常勤職員 調理員2 CAFE パート 3 看護師 1 (3) 嘱託医 1

(4) 職員派遣、委託 庄司 きょうされん広報出版委員会、精神障害部会

4 おもな施設設備の整備

・ピクルス製造用ラベラー 129,800 円 同脱気シーラー 167,915 円

・空気清浄機 ダイキン 107,800 円 レカムオゾン殺菌機 308,000 円

5 防災、安全管理、危機管理

(1) 消防・防災訓練

4 月 30 日避難訓練、12 月 22 日避難訓練、3 月 30 日避難訓練、消防設備点検(委託)実施

(2) 備蓄品の整備 なし

(3) BCP の策定(新型コロナ)

6 地域とのかかわりについて

(1) 精神保健福祉士等現場実習 5 名 武蔵野美術大学介護体験実習 3 名

(2) 小平地域精神保健福祉業務連絡会 金田

(3) なかまちテラス事業企画委員会・なかまちてらす LiNKs 庄司

7 会議

(1) 職員会議 9 回 (2) 総括会議、方針会議等

次年度からの作業再編に合わせ、年度後半の職員会議をすべて総括方針にあてた

(3) 打ち合わせ 平日 8:50~9:00 16:50~17:00

8 その他 ・第三者評価受診(10 月 30 日)

9 財政 別紙決算書のとおり

今年度からあさやけ第二作業所と地域生活支援センターあさやけの拠点統合を行い、あさやけ第二作業所拠点区分として会計処理を行っている

2020年度サングリーン事業報告書（就労継続支援B型・就労移行支援・就労定着支援）

I. はじめに

今年度は、新型コロナウイルス感染が国内で発生し、感染拡大防止のため、4/7の緊急事態宣言を受けて、時間短縮や施設内の消毒、検温といった対策をとりながらスタートした。現在もなお事態は収束しておらず、引き続き検温、消毒をはじめとした感染拡大防止策をとりながら、いつ感染者が発生するかの不安を抱えながら運営を続けている。

作業活動では、バザーや市役所販売といったイベントがほぼ開催中止となり、これまで通りの販売活動の機会を失うこととなった。そのため、調理部門では、ジャム製造は例年より製造量を減らし、焼菓子製造を休止として、毎日の昼食づくりに切り替え、空いた時間には縫製やDM作業に配置した。縫製作業では、1回目の緊急事態宣言中は時短運営をしたこともあり生産数が減ったが、マスク製造の依頼が入り、新たな利用者の仕事として用意することが出来た。石鹼・スポンジにおいては、緊急事態宣言や感染防止のため巣ごもり自粛の効果もあってか、販売数が増えた。DM作業は、コロナの影響は受けずに案件を受けることが出来たが、所属利用者が増えたことで不足気味の時もあった。

就労移行支援においては、1名でスタートして、年末に就職されたため、誰もいない状況になり利用者確保が課題である。また、B型から就職された方も2名いる。

就労定着支援は、昨年度から継続の方が3名と4月から1名増の予定であったが、新型コロナウイルスの影響で職場も休業ということもあって、ひとまずあさやけ第二作業所の利用を経て、落ち着いた状況で定着支援の利用に切り替えて対応した。

II. 利用者支援

1. 作業活動(B型・移行共通)

①ダイレクトメール作業

コロナ対策のため、パーテーションを設置して作業を行った。イベントの中止などコロナの影響で受注の減少も心配されたが、案件の供給に影響はなかった。ただ定期的に請けていた研修案内の案件は大幅に件数が減り、全体的に重量のある案件が増えたが、件数は少ないため、回収のトラックがつかず負担は増えた。

②石鹼・スポンジ作業

石鹼は、1名の方が就職したため、実質3名で製造している状況で、充填時に調理部門より1名応援をしてもらっている。時短運営中は、通常の半分量で時間内に作業が完了できるように対応した。また、巣ごもり自粛の効果もあってか販売はいつになく順調であった。

スポンジは、色のバリエーションを5色(グリーン、オレンジ、ブラック、バニラ、ピンク)として、東都生協でも販売を開始した。

③縫製作業

きょうされんふきん3枚組250個、クリンネルふきん800枚、リコーダー袋800枚を毎月生産できるようにしてきた。コロナの影響や時短運営でクリンネルふきんは、月生産400枚だったときもあった。

。

年度途中で小平市からマスク製造の受注があり、利用者の新しい作業にもなった。

リコーダー袋製造は、調理部門の利用者が作業に入ったことで生産量が大幅にアップしたものの、後半仕様変更があるため製造がストップしてしまっている状況で、その分マスク製造に切り替えているが、販路が確保できていない状況である。

④調理作業

コロナの影響もあり、焼菓子製造は受注製造に切換え、毎日のお昼づくりに切り替えた。ジャム製造においては、JA東京むさしより、ブルーベリー基金の企画で従来はブルーベリー摘み取りをしていたがコロナの影響でできなかったため、代わりにジャムをお客様にプレゼントすることとなり、製造を受諾した。(株)天然生活からは、引き続き干芋などのラベル貼りの作業を行った。

⑤配達作業

市報配達は、昨年同様であった。

ばどは、4月のみで終了となった。

⑥施設外清掃

たいよう福祉センターの落ち葉掃きは、従来通りであった。

就労移行支援のメンバーがあさやけ作業所のトイレ清掃等にも参加した。

2.就労支援

①チャレンジグループ(B型・移行共通)

移行から1名、B型から2名で取り組んだ。その中から、2名就職したため、1名しかいなくなってしまう。昼食会後の後片付けはコロナの影響で、調理部門の作業に戻したのと、ばどの配達も4月で終わってしまったため、作業メニューについては個別に組むこととなった。

外部の実習には、多摩済生園の清掃に2名が参加。あさやけ作業所のトイレ掃除に1名が参加

。

ミーティングはコロナの影響でできなかったが、個別に面談を行い代替した。

②就職状況(B型・移行)

就職者3名、うち2名がB型からとなった。これで延べ就職者数は22名(うち6名は既に離職)。内訳は、9月1名(B型、介護老人保健施設・シーツ交換など)。10月、1名(B型、松屋フーズ・調理補助)、12月、1名(移行、澄水園・清掃)。

② 定着支援(定着)

利用者4名。うち1名は、4月から利用予定であったが、コロナの影響で職場も休業ということもあって、一旦はB型を利用することで市と調整し、仕事が再開した時に支障をきたさないように対応したため、10月からの利用となってしまった。

利用期間は、2年経過3年未満1名、1年経過2年未満2名、1年未満1名である。

3.作業以外の活動(B型・移行共通)

①フリータイム

新型コロナウイルス感染防止の観点から、中止とした。

②土曜開所

1回目の緊急事態宣言中は中止としたが、途中からカラオケや外出を伴う活動については予定内容を変更し、マリオネットづくりなど施設内での活動のみを行った。

③レク・行事

コロナ感染防止のため、すべて中止として、代わりにパーティションを設置した中で、お取り寄せでできる食事を提供することで対応した。

④健康診断

40歳未満の方を対象とした多摩小平保健所の健康診断が中止となったため、対象者には受診できる病院を調べて、職員が同行して実施した。40歳以上の方は、自治体実施の健診をお願いした。

⑤防災訓練

11、3月の2回実施。

⑥全体職場会議

コロナ感染防止のため、朝と夕の2部制で行った。

Ⅲ 事業・運営

1.利用者の状況(2021.3.31現在)B型 定員30名 移行 定員6名

① 利用契約者 B型 37名(長欠者4名含む) 移行 0名 定着 4名

② 新規利用者 B型 9名 移行 0名 定着 1名

③ 退所者 B型 5名(就職2・入院1・転居1・他1) 移行 1名(就職1)

④ 年齢 B型 平均49.8歳 定着 平均45.5歳

B 10代1 20代5 30代2 40代7 50代14 60代6 70代2

定着 20代1 40代1 50代1 60代1

⑤ 居住地 小平33名(定着3) 国分寺3名 東村山1名(定着1) 東大和3名 立川1名

⑥ 生活形態 家族同居20名(定着2) 単身17名(定着2) グループホーム4名

⑦ 障害(診断)

統合失調症、気分障害、社会不安障害、発達障害、高次脳機能障害、非定型精神病
広汎性発達障害、知的障害、パーソナリティ障害

2.職員体制(3事業 共通)

①正規職員 施設長1 主任1 職業指導員1(兼務) 生活支援員1(兼務) 目標工賃達成指導員1 就労支援員1 就労定着支援員1(兼務)

②非常勤職員 職業指導員2 生活支援員1

3.施設設備整備の状況(B型・移行共通)

エアコン交換(2階食堂)、水漏れ修理、床修理

4.防災安全管理、危機管理の状況(3事業 共通)

①防災訓練 11、3月の2回実施、消防設備点検2月に千代田防災に依頼して実施

5.地域との関わり(3事業 共通)

①看護学校実習生受入 コロナの影響で中止

②小平市地域精神保健福祉業務連絡会 コロナの影響で3回のみ実施 加藤

6.職員会議(3事業 共通)

第一土曜に開催。日常的には、朝8:50~9:00、夕16:40~より打ち合わせを実施。

中間総括 10月31日、総括会議2月6日、方針会議3月6日に実施。

Ⅳ 会計 別紙

2020年度 あさやけ鷹の台作業所 事業報告書

はじめに

今年度は入所者2名、退所者は4名であった。入所者は特別支援学校からの1名、地域から1名で、この方は8月に入所し、1月に就労が決まり退所となった。他の退所者3名のうち2名は他のB型事業へ移り、1名は家族の意向で行き先の決まらないままの退所となった。

今年度も「自分たちの給料を自分たちで稼ぐ」目標を設定し、3年計画の3年目であったが、新型コロナウイルスの影響が大きく、下請けでは受注先の休業等により仕事が受けられなかったり、自主製品はバザーの中止等販売機会が減り、収入面で減収となり、冬のボーナスは支給なしとなり思うように取り組めなかった1年であった。その中でも小平市からの受託作業、資源袋作業を精神事業所と共同で取り組んだ。

新規利用者が不安定になると他の利用者へ危害を加える行動に出てしまうことがあった。特定の利用者に行ってしまう傾向にあり、警察沙汰にもなっている。そのこともあり、この利用者が作業所をやめたいという思いなり、理由はこれだけではないが、結果的に年度末に他の事業所に移ることになったのは残念である。一方で危害を加えてしまう利用者については、随時ケース検討を行い、専門家との学習会を行い、対応を検討してきている。

個別支援計画についての検討をした。法人内の講師を呼び学習会の実施、それを受けて新しい書式の検討をし、次年度より方式を改めることとした。

給料の改定を検討、検討委員会を組織し委員会を実施。現状の課題、他事業所の給料システム等を検討する中で改定を目指したが結論には至らず、次年度に持ち越しとなった。

1月には職員1名の新型コロナウイルスの感染が判明、翌週は作業所を閉鎖とし、この間に全員のPCR検査を実施した。結果、無症状ではあるが、利用者1名の陽性が判明、10日間の自宅待機となる。その他の職員、利用者については、陰性が判明し、保健所へ問い合わせ濃厚接触者に当たる人はいないとの見解で翌週から開所を再開している。以降、それまで以上に検温、手洗い、消毒等の感染予防を徹底している。

1. 主な活動

(1) 下請作業

DMの封入、封緘、ラベル貼り等に取り組んだ。収入を上げるための課題として、安定した作業確保、作業手順の職員間での共有、利用者の作業への意識、単価アップの交渉を掲げたが、新型コロナウイルスの影響でイベントが軒並み中止となり、その関係のDMがなくなったことで仕事量が激減。また受注先の閉所時期があり、4、5月は仕事が確保できない状況にもなった。6月からは少しずつ仕事量も回復してきたが、十分な量の確保には至らず、収入面でもマイナスとなっている。

(2) 自主製品作業

新型コロナウイルスの影響で、各種イベントの中止により販売機会の激減、売り上げの減収になった。一方で昨年末から続く手作りマスクの売り上げが好調で、連日作業所の客が数名来るといった状況が5月ごろまで続いた。収入面でも売り上げの減収分のかなりの部分を補えるものが得られた。後

半期は販売の機会を増やすために、作業所店頭販売を可能な時にはできるだけ行うようにし、売り上げにつながっている。マスクづくりの中でマシン操作などの技術面が培われ、今後の製品づくりに生かせるような面も成果である。

(3) 受託事業

今年度も足湯清掃を請けおい、毎週木曜日午前に実施。年に4回の大掃除を実施した。感染防止ため閉所された時期もあるが、清掃作業はおおむね予定通り実施できた。アクリル板設置などこれまでと違う対応をしなくてはならないこともあったが、特に混乱はなく取り組んでいた。

小平市からの受託作業、資源袋作業をあさやけ第2作業所、サングリーンとともに取り組んだ。1月にはコロナ感染者発生による閉所、参加の見合わせがあり、昨年より参加日数は減となった。利用者は新しく参加した人はなく、昨年も経験した人のみの参加であった。

(4) 就労に向けた取り組み

新型コロナの影響で前半は市役所実習自体が行われず、再開されてからも参加希望者があまり出ず、今年度は1名のみの実施にとどまった。8月から利用開始した利用者は就労に向け意識が強く、始めから「就労するまで」ということでの利用であった。自らハローワークに出かけ、募集を調べるなどして、1月には新規オープンのスーパーへの就労が決まり退所となった。

(5) 自治会活動

今年度はほとんどの行事が中止となり、行事に向けた活動が中心となっている自治会は、ほぼ活動がない状況であった。自治会は行事のみの担当ではなく、作業所全体のことを考えられるようになることを目標としている。仕事が減り時間的な余裕があったが、その時間を利用してより前進した自治会活動の取り組みができるチャンスでもあったが、職員にその余裕がなく不十分に終わってしまった。

2より豊かな作業所生活のために

ほぼすべての行事、サークル、土曜開所が中止となった。その中で何かできることはないのか、どのような条件があれば実施できるのかということを探る中で、夏のボーナス外出について交通機関を利用しない、外食をしないということを条件に徒歩で行ける範囲での小グループに分かれての買い物外出を実施した。体制上トラブルに対応しにくい等の課題は出たが、この状況下の中で実施できたことは利用者にも好評であった。

2. 運営に関して

(1) 利用者の状況(2021年3月31日現在)

定員30名 現員26名

入退所者の状況 今年度の入所2名、退所4名

月別出勤状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
現員	28	28	28	28	28	29	29	29	28	27	26	26	27, 8
開所日数	21	18	22	21	16	21	22	19	21	11	18	23	19, 4
出勤員数	555	480	531	500	400	492	548	474	503	241	405	494	468, 6
1日平均	26,4	26,7	24,1	23,8	25,0	23,4	24,9	23,7	23,9	21,9	22,5	21,5	24, 0

区市町村(受給者証発行)

小平	東大和	東村山	武蔵村山	西東京	清瀬	練馬	大田	足立	東久留米	あきる野
----	-----	-----	------	-----	----	----	----	----	------	------

17名	2名	0名	0名	1名	0名	2名	1名	1名	1名	1名
-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

障害の状況

		1度	2度	3度	4度	なし	
身障手帳	3級						0
	4級						0
	なし		2	11	9		22
精神手帳	1級					1	1
	2級				1	2	3
合計			2	11	10	3	26

年齢構成

年齢	18～	20～	30～	40～	50～	60～	合計
人数	1名	5名	8名	9名	2名	1名	26名

平均年齢 37.6歳

生活形態

家族と同居	共同ホーム	単身・その他
11名	10名	5名

居住市区町村

小平市	あきる野市	練馬区	東大和市	東村山市	武蔵村山市
18名	1名	0名	5名	0名	2名

利用者の通所状況

送迎車利用	交通機関利用	徒歩・自転車	他
0名	12名	14名	0名

3. 利用者処遇に関する計画

(1) 主な取り組み

- 4月1日 入所式、はじめの会
- 7月 ボーナス支給、外出(東大和、ヨウカドー、ユニクロ等)
- 8月11日～15日 夏季休暇
- 10月12日 健康診断
- 11月26日 健康診断 悶死 インフルエンザ接種
- 12月12日 実践交流会
- 12月28日 仕事納め、忘年会(施設内で)
- 12月29日～1月4日 年末年始休暇
- 1月12日～20日 新型コロナ感染者発生による閉所

(2) 医療、健康管理

- ・健康診断 10月12日 あきる台病院
 - ・問診、インフルエンザ接種 11月26日 比留間医院
 - ・石垣看護師による健康相談 月一回
- 肥満、食生活の乱れ等が課題。日常的には、昼の投薬の管理、必要に応じて通院同行、医

師への情報の提供を行い、家庭、GHとの情報の共有、連携。感染症への対応、消毒方法等の共有。

4. 職員関係

(1) 職員構成

- ・施設長 1名
- ・主任 1名
- ・サービス管理責任者 施設長兼務
- ・作業支援員 4名
- 1名(非常勤職員、月・木勤務)
- ・生活支援員 1名(主任兼務)

(2) 職員の異動・採用

特になし

(3) 職員会議の開催

第一土曜日開催。理事会、施設長会議の報告、取組の検討、利用者の様子等が議題。日常的に、夕方の打ちあわせを実施。その日の利用者の様子、作業の確認、予定の確認を行う。

- ・中間総括 10月3日
- ・総括会議 2月5日、6日
- ・方針会議 3月5日、6日

*不足するところは、日常の打ち合わせ時で対応

(4) 職員研修

- ときわ会実践交流会 12月12日 全職員
- 講師を呼んでの研修 児島氏 大正大学 利用者のケース検討
- あさやけ野口 個別支援計画の学習会
- その他、関係機関のケース検討などへの参加

(5) 健康管理

協会けんぽ病院において、健診を実施(正規職員のみ)

5. 実習・研修の受け入れ

(1) 実習

- 7月29日、30日 清瀬特別支援学校 高3女子
- 10月19日～24日 ほっとより紹介 女性
- 9月7日～18日 田無特別支援学校 高3男子(次年度、利用契約)
- 11月16日、24日、30日 田無特別支援学校 高2男子 インターシップ
- 12月23日～28日 地域より 男性 *その他、支援センター等を通じ見学者数名

(2) 研修・介護体験

- 7月27日～8月4日 武蔵野美術大学介護体験学生3名
- 7月28日、8月5日～7日 同 3名

6. 施設、環境整備

ごみの有料化に伴い、減量を図るため分別の徹底。

6 防災訓練等

- ・消防用設備点検 3月12日(ナカムラ防災)
- ・避難訓練 未実施

7 給食体制

月・火・木 仕出し弁当(東村山給食センター)

水・金 調理給食(たすけあいグループひまわり) その他、行事時に特別給食実施。

2020年あさやけ風の作業所事業報告

1. はじめに

2020年度は下記の2点を課題として掲げた。

①他市在住者も含め利用希望を受け経営の安定をはかる。

②引き続き利用者の健康と命を守る取り組みを進める。

①今年度は新卒者2名を受け43名の契約数で始まった。年度内に4名の実習を受け、このうち1名は9月から、もう1名は3月から利用を開始し45名の契約となった。また後の2名からも1名の利用希望が出された。この他にも年間を通じて問い合わせや見学があった。長年、利用を小平市在住者に限ってきたこともあって特別支援学校を中心に「風は新規利用が難しい」というイメージが受け継がれていたが変化が生まれていると感じさせる。在籍の利用者の支援でサービスの現場に余裕がない実態はあるが、地域資源としての役割を果たしかつ経営の安定を追求していく視点で今後も積極的に新規利用者の受け入れを考えていきたい。

②では世界的な新型コロナウイルスの感染拡大という未曾有の事態の中での事業継続となった今年度は看護師の常勤化を実施し感染症の対策も看護師の監修で講じることができ、年度内まで事業所から感染者は出ていないが私生活や家庭生活・作業所生活にこれまでとは違った制限の多い日々を強いられていることは利用者の精神面にも大きな影響を与えており、利用者の傷つきに関与していかなくてはならないと思う。

また、誤嚥や呼吸困難その他転倒しやすさなど加齢や重度化が原因で起き得る事態への対応を重点課題のひとつとして数年が経過した。前述したように今年度から看護師の準常勤化が実現したことも幸いし、ギリギリの体調となった1名の利用者の通所が4月半ばまで実現したことは価値あることであった。が、同時にいつ状態が急変するかわからないという危険を孕んだものであったことを見なくてはならないと思う。一方重大な3件の重大な事故が発生してしまい、大きな後退となった。次年度は改めてここから取り組んでいかなくてはならない。

2. 2020年度の主な事項について

(1) 労働を中心とした活動

■ 下請加工事業

これに取り組む2班では、受注作業で採便管入れ・DMの封入・情報誌の配布、リサイクル作業で通信の作成配布・空き缶回収に取り組んできたが、長年取り組んできた採便管の作業が年度途中で打ち切りとなってしまった。代わる受注作業を探す必要があったが、一部利用者の個別対応が必要だった状況もあり、仕事探しになかなか時間を割けずいた。

■ 製菓事業・喫茶

引き続き焼菓子・パンの製造・販売を行ってきたが、新型コロナウイルス感染症の緊急事態宣言が出される中で喫茶を休業したり、営業していても従来行っていた利用者の、喫茶の給仕をやめたりするなど大きく影響を受けた。一方で、テイクアウトや注文販売、グループホームへの定期的な納品などで活動が継続でき新たな可能性も見出した。

■ 印刷事業

これまで同様 冊子・年賀状・喪中ハガキなど依頼を受けた仕事にそれぞれで取り組むスタイルで行ってきた。またキーホルダーの製作・販売も継続した。印刷事業自体は新たな注文や増収が難しい状況であるため、活動のあり方を改めて考えていく。

(2) 施設運営について

2020年度の運営に関する数値は、開所日数241日、契約人数は45名。延べ通所人数は8,582名、通所率は81.1%だった。この中には入所先の施設の決定で感染防止策のためほぼ1年間利用がなかった施設入所者2名も含まれている。

(3) 健康・リハビリ部門の取り組み

看護師と担当の職員を中心に健康管理業務を行ってきた。健康診断は顧問医の内科診察、健康診断、顧問医の健診結果の説明という流れで行い、看護師が記録入力システムに記録をまとめるなど継続的なものになっている。その他歯科検診、外来リハビリ、訪問リハビリ、マッサージ、歯磨き指導、体重・血圧測定、非常時用の薬の預かり、感染症の対応などに取り組んできた。またこれに加え2020年度は新型コロナウイルス感染防止のための消毒などの環境整備やバイタルチェックを日常業務としてきた。

3. 利用者の状況

(1) 利用状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	43	43	43	43	43	44	44	44	44	44	44	45

※車椅子利用者は15名に、割合は36.5%になる。

(2) 年齢別状況

	～20歳	21～30歳	31～40歳	41～50歳	51～60歳	61歳～	合計
人数	1	12	13	11	6	2	45

※平均年齢38.41歳

(3) 入退所状況

- ・入所 広瀬温大4月1日 吉田奈央4月1日 山上広美9月14日 菊池肇3月1日
- ・退所 平松 大3月31日

(4) 障害程度区分 区分6→17名、区分5→10名、区分4→17名、区分3→1名

※区分6と区分5の人数が27名で6割となる。

(5) 利用者居住(住民票)の自治体 小平市43名、豊島区1名、所沢市1名

(6) 生活形態

- ・家族と同居 22名
- ・単身生活 2名
- ・入所施設 2名
- ・ホーム入居 19名(一歩4名、こげら1名、はやぶさ3名、さらさ3名、やまびこ1名、こだま1名、おがわ1名、花の樹1名、アゼリア1名、やえざくら3名)

(7) 作業班の状況

作業班名	人数	職員数	担当職員	作業内容
あおぞら	15	3	吉田、中島、日下	採便管、DM、その他受注自主製品
ペガサス	14	4	岩田、三浦、石毛、持田	採便管、DM、その他受注缶回収

とうたす	7	2	齋藤、山口	印刷関係全般
こすもす	9	2	石川、山本、秋山	菓子製造、喫茶

(8) 給料支給について

給料は事業別の給料制度とし、基本給+評価給(1,000円きざみの5段階)である。とうたす班では自分たちで評価をし、2009年から250円きざみの20段階の評価給表を使ってきた。

- ・2020年度の工賃支払総額 2,819,050円(2019年度は2,787,825円)
 - ・2020年度の平均工賃月額 5,388円(2019年度は5,666円) 前年度比 -278円
- ボーナスは、夏5000円・冬5000円(どちらも一律)

(9) 健康・リハビリのとりくみ

- ・健康診断 「あきる台病院」に依頼し作業所で10月に実施。健診に関連して嘱託医の比留間医師の内科診を5月に、健康診断の結果説明を11月に実施した。
- ・歯科検診 ほんま歯科医院に依頼し年1回の検診を11月に実施した。
- ・歯磨き指導 歯科衛生士の指導を月2回実施してきた。利用者に対する歯みがき指導と共に、支援のために職員が順に指導を受けた。
- ・外来リハ 月2回東京小児療育病院で実施。受診者5名。
- ・訪問リハ 東京小児療育病院のOTの訪問リハビリを年5回実施した。

(10) 主な行事

今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のためほぼ全ての行事は行わなかった。

- ・入所式、出発式 4/1
- ・還暦を祝う会 6月

(11) 通所方法について(複数手段の利用を含む)

- ・徒歩等自力4名
- ・自家用車1名
- ・送迎バス 36名
- ・家族の送迎 4名

○送迎バスの運行について

小平市外在住者は個別に相談をして利用。利用料金は1乗車200円。

2020年度は職員が4コースを運行、2コースをドライバーに委託して行っている。

4. 給食の実施状況・年間食数

月	日数	利用者	職員	ボラ・実習生	合計食数
4月	22	696	329	24	1049
5月	18	589	276	3	868
6月	22	770	343	11	1124
7月	21	747	350	25	1122
8月	18	612	277	61	950
9月	20	751	314	11	1076
10月	22	801	363	11	1175
11月	19	694	303	14	1011
12月	20	709	317	15	1041
1月	18	641	279	8	928
2月	18	638	280	12	930
3月	23	834	346	53	1233
年合計	241	8482	3777	248	12507

月平均	20	707	315	21	1063
日平均		35	16	1	52

年間食材費 4,279,804円(1食の単価342円)

5. 職員関係

(1) 職員構成

①職員 サービス管理責任者 1名(1.0)

事務員 1名(1.0) 施設長 1名(1.0) 生活支援員 11名(10.8)

看護師 1名(0.8) 調理員 3名(2.0)

③ 嘱託 嘱託医 1名 ※()内は常勤換算 合計 19名

(2) 職員の状況

・採用 秋山 茜 4月1日付

・産休、育休、病休等 育休 山口裕子、病休 山本真奈美

(3) 諸会議

会議は職員会議を一月に1回、現場会議を一月に1回を基本に適宜開いた。また、利用者降所後に毎日短時間の打ち合わせを行った。

①職員会議

今年度も月1回の職員会議を基本に10月の中間総括会議、2月の総括会議、2・3月の方針会議で半期・年間のまとめを行い実践と運営の振り返りを行った。

②現場会議について

生活支援員の会議として現場会議を月1回開催してきた。

(4) 研修

・新人職員研修 秋山 ・実践交流会 全職員

・きょうされんオンライン研修 現場職員

6. 防災関係 (防火管理者/吉田哲男)

①避難訓練等 避難訓練の回数 1回 年間計画の回数が実施できなかったため、月間予定に入れるなどの改善が必要である。

②消防用設備等保守点検 2020年10月28日

7. 施設整備及び建物管理について(高額なもの)

・照明LED交換工事 1,178,760円 ・記録入力ソフト追加 198,000円

・天井修繕工事 368,500円 ・館内放送アンプ交換 145,970円

・厨房冷蔵庫修理 113,553円 ・厨房機器メンテナンス 201,960円

・エレベーター保守・修理 295,922円 ・車輛リース(5年契約) 4,017,600円

8. 父母へのとりくみ

・今年度は感染防止のため父母会は開催されなかった。

9. 地域事業について

①特別支援学校の進路実習受入 田無特別支援学校1名、清瀬特別支援学校1名

②地域からの実習 2名

③学生等の実習 武蔵野美術大学介護体験7名、白梅学園大学実習4名、帝京大学1名、帝京短期大学1名、

④見学、体験等の受入 小平特別支援学校など

10. 苦情・第三者評価

- ・苦情 2020年度は1件の苦情に対応した
- ・今年度第三者評価は受審していない。

2020年度地域生活支援センターあさやけ事業報告

はじめに

地域生活支援センターあさやけは、開設から20年を超えこれまでの登録者は524名となりました。昨年の登録者は162名で、うち、家族登録が2名で新規登録者は13名となっています。サービス等利用計画の作成も、現在250名を超えており、地域移行、地域定着の事業も継続して行っています。本人の生活を大切に、家族や関係者と連携をしながら支援を行ってきました。今後も、必要な方に支援ができるように、行政や関係機関とも連携をしていきたいと思っております。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響（以下コロナ）もあり、すべての活動に大きな影響を与えた。

I 利用者状況

登録者数 162名（これまでの総登録者数524名）

内訳は、更新 142名 新規登録13名 再登録5名 退会18名

開所日数 294日 交流室の開所246日（コロナのため閉所期間あり）

交流活動参加者 4,311名（一日17.5名）

電話相談 9522名（一日32.4名）

面接相談 2157名（一日7.3名）

新規相談 58名

訪問 610回 同行 179回 金銭管理 840回

関係者会議 169回

サービス等利用計画作成 252名

地域移行 2名 *うち2名終了 3月井之頭病院 12月久留米が丘病院 より退院

地域定着 8名 *うち2名終了 5月 10月

居住支援 24名

II 重点項目

項目1 ～利用者が地域で安心してその人らしい暮らしがしていけるように個別支援を充実させて生活の向上や生活の幅を広げる取り組みを行う～

—具体的な取り組み内容—

①地域活動支援センター事業（相談や交流室やプログラム）運営の在り方を再考し、職員が求められている役割を考える。

新規の定着状況や登録者の退会状況を検証し、利用希望者がつながりやすい交流室のあり方やプログラム運営を見直す。

さまざまな疾患をもった利用相談が増えてきているため、センターにつながるまでのアセスメントを丁寧に行い、可能な限り新規利用者の後追いを行う。

②利用者はもとより、支援センター以外どこにもつながりのない人達の健康状態を把握し

、必要な支援体制を整えていく。

利用者の健康状態の把握のために、医療状況、健診状況等の確認注目をしていく学習会等、看護師の関わる機会をつくり健康に対する意識づけを行う。

③記録ソフトの導入することで、業務の円滑化や情報共有をしやすいとする
具体的運用のための準備をする。

記録の残し方の共有、年度末にソフトの修正に向けて必要なことを探る。

昨年は、新型コロナ感染予防の影響もあり、主に交流活動と面接に影響が表れた。利用状況の検証では、登録者は40～50代が多く、相談や交流の継続的な利用が多い。新規相談は20～30代が多く、日中活動先や年金の相談など単発で終わる相談が多い傾向にあった。退会者の過去3年の傾向では、転居、他サービスの利用などの環境の変化を機に退会する方が多かった。重点項目として掲げている健康状態の把握については、登録時の健康診断の受診状況の確認にとどまる。

記録ソフトの導入は、主に集計業務に合わせてのシステム変更等の調整に時間がかかった。計画し相談件数に関しては、従来通りのエクセル管理をしているため、集計報告には合算が必要となる。

個人情報の管理については以前よりもデータベースでの管理のため活用しやすくなっている。

項目2 ～特定一般支援事業・指定特定支援事業の体制整備を進める～

—具体的な取り組み内容—

① 計画作成の担当者のケースの引継ぎ

これまで行っていた、庄司、藤井の計画作成を引き継いでいく。新に小林が専任相談員と配属されて、花形、伊藤が作成している方の計画を引き継いでいき、新たな新規作成希望者に応えられる体制作りを行う。

② 事業運営の安定を図るために、各種の加算を取ることや計画作成、モニタリングの件数をやり残さないように行う。

2020年度は、特定事業所加算Ⅲ（常勤換算3名以上）を取得し、2021年度には、特定事業所加算Ⅰ（常勤換算4名以上）を取得するようにする。

③ 地活事業と指定特定事業との業務分離（兼務職員の業務や場所の分離等）について中間総括会議を踏まえて方向性を明らかにしていく。

④ 自立生活援助についても取得に向けて検討を行う。

計画相談人数は、252名で常勤3名、兼務職員3名で担当してきた。

昨年4月より、専従3名となりこれまで増え続けてきた事業対象者の担当の引継ぎを行い、モニタリングのやり残しの解消につながった。精神障害者のケースについては、終了は17名、再開は7名（R3.1時点）終了しても継続した関りが求められることが多い。

特定事業所加算Ⅲ取得した。21年度の報酬改定により、加算方法の変更が行われ新たな対応が必要となった。また、地域移行支援事業は今年度支援対象にしていた2名が地域移行をした。地域定着支援事業は、地域移行から地域定着支援に移った方も含めて6名を対象と

して24時間支援を行っている。

項目③ 新体制や、新型コロナウイルスの影響 *年度途中より追加

- ① 利用者関連
- ② 職員の働き方
- ③ 支援センターあさやけ関連 別紙にてまとめる。

Ⅲプログラム

1 プログラム

- ・風の会&メンバー学習会（月1回、最終木曜日2時から）5回開催 参加者平均9.6名
メンバー学習会は行わず、コロナの対応報告などが主であった。
- ・女性のための書道（月2回、隔週水曜日10時30分から）4回開催 参加者平均4名
7月から再開 書道のみを行う。後半の交流はなかったが、最近の利用者は会話中心でなくても過ごせている。
- ・女子会（隔月、第3水曜日 10時30分から）6回開催 参加者平均4.8名
センター病院の訪問看護の参加はコロナの影響でできなかった。今年度は食事系ができなくなり、マスクづくりや、トーンチャイムなどを行った。
- ・SST(生活技能訓練)（月1回、最終水曜日4時30分から）6回開催 参加者平均5.6名
ウォーミングアップゲームのあと参加者からテーマを出してもらい、日常的な悩みを共有し、リーダーに話を回してもらう。交流室の時間制限もあり、参加人数は減った。対人関係の悩みや生活上の悩みの相談がある。
- ・デイプログラム（月1回、10時30分から）7回開催 参加者平均3.2名
人とのつながりや交流の機会が少ない利用者を対象に参加をよびかけている。茶話会として近況を聞きながら、世間話をしている。新たに、コロナで全く外出ができていない方にSkypeを使った面接に取り組んだ。（10月～毎月）
- ・スポーツ（年4回程度、体育館） 4回開催 参加者平均9.7名
看護学生との交流と体を動かしたいとの希望が多くあり、学生の実習日に合わせて実施。バスケットや卓球、バトミントン等を行った。利用者が中心になって体操や、種目決めなどの準備、片付け等自主的に行っている。スロージョギングやヨガ、ボクササイズなどコロナに合わせた密にならない取り組みを行った。
- ・ピアサポートなかま会/ひるごはん/ゆうごはん/カレー夕食会 コロナのため開催できず。

臨時プログラム（6月～）

- ・トーンチャイム（月1回 火） 7回開催（12月は2回） 平均参加者9.7名
毎回参加者が多く、参加定着率が高いプログラム。未経験の人も参加しやすく、達成感の得られやすい内容だったため、臨時プログラムの中で唯一定期開催となった。クリスマス会での発表もした。
- ・美術部（不定期） 4回開催 平均参加者2.7名
絵画や写真など、美術系の趣味を自由にできる時間の提供として開始。画材の用意を

提案していたが、皆が好きな材料を各自持ち込むスタイルで行った。

- ・スマホを使ってみよう（不定期） 6回開催 平均参加者4.3名
コロナの見通しが見えない中、オンライン交流室の可能性を踏まえ、ZOOMやLINEの使い方をを行う。スマホを持っているが、使い方がわからない。キャリアではアプリの使い方を教えてくれず、話も難しいため相談できない層に需要があった。
- ・映画観賞会（不定期） 4回開催 平均参加者数7.5名
夏のお楽しみ会が開催できないことを受け開催。一度きりの開催を考えていたが、メンバーからの要望があり、その後も一定の間隔を取りながら行った。内容によって参加人数が異なるが、全体を通して好評だった。
- ・女性の交流室（7月～ 毎週金曜日 平均参加者2.6名）
区分けした時間帯の一つを女性の交流室とした。これまではプログラムでしか女性のみ時間を設けられなかったが、定着しにくかった女性層の交流の場として定着してきている。
- ・お試しスポーツ（不定期） 4回開催 平均参加者6.2名
外出自粛で運動不足になるため、軽いスポーツ（スロージョギング、椅子ヨガなど）を主に屋外で実施。技術のいらぬスポーツをメインとしたため、誰でも気軽に参加できていた。
- ・ボクササイズ（不定期） 2回開催 平均参加者6名
ボクシングへの憧れを抱いていたメンバーが多く、ボクシングを習っている職員に教えてもらいながら、運動不足解消のため屋外にて実施。
- ・散歩（不定期） 2回開催 平均参加者3.5名
スポーツよりもハードルの低い散歩で運動不足を解消。天候や気温等にも影響を受けたため数回の開催となったが、気分転換にもなるため今後も不定期に開催したい。
- ・ヨガ（不定期） 5回開催 平均参加者2.2名
女性のプログラム（書道や女子会）の開催が減ってしまったことを受け、女性の臨時プログラムを考案。メンバーからの要望があり、ヨガを実施。生活している部屋ではスペースが確保できないため、これを機に経験できたメンバーが多かった。

2 季節の行事、年間プログラム

12/1	わかりやすい障害者福祉計画説明会	7名
12/4	異才アート展	3名
12/24	クリスマス会	15名
1/7	初詣 八坂神社	7名

今年度、コロナで、季節行事のほとんど行えず。また、開所当初から継続してきた、年末年始の開所は職員、利用者等との協議により中止となった。

IV 相談、面接について

1 新規相談の対応について

今年度はコロナにより新規相談受けられずにきた。新規相談の受けつけについては58名の新規相談者となった。交流室閉鎖期間の新規相談は緊急時を除いて受け入れを停止していた。

2 日常的な相談の対応について

頻回電話、心理的内容の相談も多くあり、電話がつながりづらいことや、面談予約が取れないこともあり、電話相談はおおむね15分以内、頻回面接相談は、おおむね30分で対応をすることを登録時に確認している。

V サービス等利用計画、地域移行、地域定着事業

サービス等利用計画作成 252人

地域移行 2名 *うち2名終了 ・12月・3月 井の頭病院・久留米が丘病院より退院

地域定着 8名 *うち2名終了 ・5月・10月

VI 居住支援推進事業

居住に関する相談や問い合わせを受けていき、保証人協会の利用希望があれば、不動産屋や市と協議して契約まで繋がるように情報提供等を行った。相談者24名。

VII その他

1 実習生の受け入れ 合計56名

(1) 精神保健福祉士養成実習：日本福祉教育専門学校 コロナのため中止

社会福祉士養成実習：白梅大学 コロナのため中止

(2) 1～2日看護学生、病院スタッフ実習

学生実習生用資料を使用して、精神障害者の福祉の状況や施設の概要説明

利用者の生活体験等の話を聞く。交流室で利用者と交流。

・東京女子医大、1日実習は中止

・外国からの留学生については今年度中止

・目白大学

・4年次実習 8/24-27 合計12名

・3年次実習 3日間実習 9/28-30 10/5-7 10/13-15 10/19-21 10/30-12/1
12/2 12/7-9 12/8 合計22名

・杏林大学 9/9-10 合計3名

・文京学院大学 8/18-20リモート実習 合計2名

(3) あさやけ第二作業所からの精神保健福祉士養成実習 1日実習 合計5名

2 職員会議、打合せ

(1) 職員会議 毎月 第1第5土曜日午前に開催し、主な議題として利用者対応について、プログラム行事の進め方、重点項目の進め方について等の協議を行った
第5土曜日は、代休消化が難しいため法人と確認を休み扱いとした。

(2) 毎日の打ち合わせ

12:30～ 予定の確認、利用者状況と対応についての検討等を毎日開催した

(3) 方針・総括会議

中間総括会議 2020年10月20日(水) 上半期振り返りと下半期の活動

総括会議 2021年2月3日(水) 年間の活動の振り返り

方針会議 2021年3月3日(水) 次年度の活動計画の確認

(4) 活動報告会 コロナウイルス感染拡大を书面開催とした。

地域の関係機関、医療、福祉、保健所、小平市障がい者支援課、全12事業所へ2019年度事業報告と2020年度事業計画を送付した。

(5) ケース会議

2回開催 18:30～ アドバイザー 大森先生

(5・7・9・1月はコロナの状況を踏まえ中止)

- ・「要求が多く、気になる人ができると他害にまで発展するケースへの対応」
- ・「電話相談をメインで利用しているAさんの最近の変化について」
- ・「要求が多く、対人ストレスで他害にまで発展するケースへの対応と支援の方向」
- ・「本人をどう理解していけばいいのか迷ってしまうケースについて」

日常的にケースについて深めた議論が出来ないため、このケース会議に提出することで現状や課題をまとめられ、対応策も考えられる機会となった。

(6) 研修（参加研修）

東京都強度行動障害支援者研修	1/13-15	2/2 (ZOOM)
多摩精神保健福祉センター	11/18	12/9-10
東京都自立支援協議会関連研修	9/28	12/14
とうきょう会議 課題焦点型ゼミ	10/22	11/17
	Zoom	12/22 1/19 2/16 3/16

VIII 関係機関との連携、会議出席

- ・小平地域精神保健福祉業務連絡会 月1回 第二水曜日
- ・小平市障害者団体連絡会 月1回 第四水曜
- ・小平市自立支援協議会 全体会年4回、幹事会年4回、事務局会議月1回
部会年3回
相談支援ワーキング 年2回 地域生活支援拠点ワーキング 2回
- ・精神障害者にも対応した地域包括ケアシステム 全体会 年2回 事務局年4回
- ・障害者福祉計画 策定委員会 年5回
- ・とうきょう会議支援センター部会 月1回
- ・ほっと連絡会 1回
- ・ひびき、ほっと、あさやけの合同会議 月1回 (コロナで中止)
北多摩北部医療圏域特定相談支援会議 (コロナで中止)

ix 防災

避難訓練 10/23 元気村全体

x 職員

常勤職員7名、非常勤職員2名 (週2日勤務、週1日勤務)

サービス等利用計画非常勤職員 4名

2020年度 共同ホーム一步事業報告

<共同ホーム一步>

1. はじめに

支援体制の充実と運営体制の安定化をはかるため、共同ホーム一步と共同ホームこげらのユニット化めざし、2020年8月実現した。しかし、それぞれのホーム利用者の障害の様子や職員体制の違い、長年ホームで積み上げてきた支援体制の違いなどから、連携体制をとっていくのはかなり難しかった。

また、両ホームともコロナウイルス感染症の影響を受け、週末の外出の自粛や帰宅の制限があり、利用者の生活状況が貧困になった。一步は12月にノロウイルスの発症があり、食事等においても食事提供の停止期間があったりと制限の多い年であった。

2. ホーム管理運営状況

(1)入所者の状況

1)定員10名 現員10名（男性6名、女性4名）

2)利用者の概要

年齢／30歳代1名 40歳代3名 50歳代5名 60歳代1名（介護保険）

手帳／身障手帳 1種1級7名 1種2級1名 愛の手帳 2度2名

区分／区分6 5名 区分5 5名

(2)運営状況

日～金曜日泊、土曜日帰宅が基本。内女性2名は家庭の状況から隔週土曜日泊。他の入居者も、家庭の事情で帰宅ができないときは、土曜日泊を行っているが、365日利用の希望は強い。また、夜間支援も非常勤職員ではなく世話人でやってほしいとの要望があるが、宿直者が2名体制であることや、就業規則の整理ができず応じきれていない。今後の検討課題である。

1)運営体制

管理者1名（こげら兼務）

サービス管理責任者1名（兼務） 世話人 常勤5名

介助員（夜勤）10名以上（男女各1名体制）※非常勤職員ではあるが、研修期間を経て行っているこげらの支援／世話人男女各1名が、入浴・朝の支援を月2回ずつ行った。管理者はこげらも兼務し、支援に入った。

2)食事作り たすけあいグループひまわり・あいの樹・アルバイトに委託

3)清掃 たすけあいグループひまわりに委託

(3) 財政状況

昨年度から、東京都の体制強化支援事業補助金制度を受けることができ、一定の収入は得られているが、管理者が1名増えたことで財政的には厳しくなっている。財政の安定化を図るため、支出の見直しも行って行く必要がある。

(4) 施設整備

- 1) 使いにくさと老朽化もあり、台所の改修を行った。
- 2) 施設の老朽化で、細かいところの不具合も多々あり、度々修理も行った。今度は、増圧ポンプの交換など多額の修理等が見込まれる。家主とも相談しながら、入居者に不便のないよう進めていく必要がある。

(5) 防火防災

- 1) 防火管理責任者を世話人の中から選任し、避難訓練を実施した。
- 2) 管理者及び世話人全員が救命講習を受けた。

(6) 研修

- 1) グループホーム合同の研修会
- 2) 法人の実践交流会
- 3) その他（コロナ感染症対策BCP講習、体制強化支援事業関係研修等）

(7) 第三者評価受審

3. 入居者の生活状況

(1) コロナウイルス感染症の対応を引き続き行い、検温・マスク着用・手洗い・消毒を徹底した。慣れないマスク着用だったが、続けていく内にほとんどの方が着用できるようになった。発熱時の対応が難しく、微熱があったとしても水分補給等行った上で検温し直して様子を見るなどの対応を行うようになってきた。

(2) 家族の高齢化で、家庭で過ごすことが難しく、隔週で土曜日にも宿泊している方が2名になった。また、連絡等も親ではなく姉姉ととる方も増えつつある。

(3) 入居者1名が体調不良となり、今後医療的ケアを求められるケースが出てくる可能性が濃厚になった。

(4) 入居者の障害の重度化や疾病など、また家族の高齢化にもより通院同行も増えている。

4. 利用者負担金

利用者負担金の合計額は95,000円(特別給付費対象者は85,000円)であるが、年度内で精算し、残った場合は返金するが、今年度は、水光熱費等の支出が増え返金はない。

< 共同ホームこげら >

1. はじめに

開設して25周年がたった。入居者及び家族の高齢化への対応は、ホームの世話人だけで

はやりきれず、通所している作業所の手を借りて行っている。共同ホーム一步とのユニット化をめざし2020年8月に実現し、一步の職員が入浴・朝の支援を月2回ずつ応援に入るようになった。しかし、古くから関わってきた職員の退職もあり、十分な援助体制はとれな
いまま過ぎてきた。また、開設当初から関わってきた世話人が今年度で退職するため、援助体制については、早急に進めていかなければならない。

2. ホーム管理運営状況

(1) 入所者の状況

1) 定員5名 現員5名 (男性4名、女性1名)

2) 利用者の概要

年齢／30歳代2名 50歳代2名 60歳代1名 入居年数／25年、17年、16年、10年、4年
手帳／身障手帳 1種2級2名 愛の手帳 2度1名 3度3名 区分／区分5 3名、区分4 2名

(2) 運営状況

日～金曜日泊土曜日帰宅が3名、毎日宿泊が2名

夜勤体制はとれておらず、夜間は世話人不在になる。夜間態勢強化が課題であるが、まだ実現できていない。

1) 運営体制

管理者1名(一步兼務) サービス管理責任者1名(兼務)

世話人 常勤2名 生活支援員 3名(男性2名は主に入浴介助)

2) 夕食作り たすけあいグループひまわりに週2～3回委託

3. 援助者会議

年3回会議を開催して、世話人間と通所施設との意思疎通や入居者ひとりひとりの課題や対応について話をしてきた。

4. 入居者の生活状況

(1) 平日は作業所に通所している。

週末は、常時ホームで過ごしている入居者が2名。実家を訪問や移動支援を利用したの外出している。帰宅している入居者が3名である。祝日は、帰宅せずホームで過ごすため、日中の支援体制をとっている。コロナウイルス感染症の外出自粛で、帰宅時もタクシーを使用したり、自由な外出も制限されたりした入居者もあった。

(2) 高齢とまではいえないが、体の不具合(歯・耳鼻・皮膚・泌尿器)が次々と起きて、定期通院以外に通院することが増えてきている。こげらの世話人では対応しきれず、通所している作業所の職員に通院同行をしてもらい、かなり助けられた。

5. 施設整備

(1) プライバシー保護の観点から、各部屋に鍵を取り付けた。鍵は共通番号にして何か起きたときは、世話人がすぐに開けられるようにした。

(2) ホームの書類などを整理しておけるようにし、世話人の事務作業ができるよう空き部

屋を整備した。

(3)避難経路確保のテラス設置は、昨年同様検討したが実施できなかった。

2020年度共同ホームサンライズ事業報告

I はじめに

今年度も以下の三点を重点課題として事業を行った。

- ・生活施設職員としてのスキルアップをめざす。
- ・ときわ会における精神分野の人たちの生活支援に関わる課題の整理を行っていく。
- ・地域とのネットワークを強化し、社会資源としての役割を果たす。

以下、2020年度の事業を報告する。

II 実践

1. 支援の内容

① 食事の提供

平日の夕食、土日の昼食を提供し、野菜中心の家庭的な食事となるよう留意してきた。また、今年度は年末年始や連休以外の祝日も昼食を提供し、調理に関するアンケートを実施して希望を取り入れた。コロナ禍で夕食を自室で食べてもらい、デニーズでの昼食会も中止となったが出前を取り、クリスマス会を開催するなどの交流を図ってきた。

② 相談支援

コロナ禍で、短時間での面談や内線を使っての面談となったが、いつでも自由に話が聞けるように心がけてきた。24時間体制の支援ではないため、管理人の携帯番号を伝え、夜間の電話やメールなど、できる限り対応に努め、重要と思われる内容については関係機関や医療機関とも共有してきた。

③ 服薬管理と通院同行

コロナ禍で通院同行できない方もあったが、通院同行は8名延29回を実施し、同行できないときは主治医やPSWと連絡を取った。また、今年度新たに訪問看護利用が2名増え3名となり情報共有を行ってきた。服薬管理は3名の方の薬をホールで預かり、他は自己管理であっても服用確認を行った。医療機関との関係者会議（1名）も開催した。

④ 地域生活移行の支援

今年度は、4月に1名が退去し単身アパート生活、8月に1名が退去し施設入所となった。アパート探しや引っ越しまでの支援を行い、退去後も土曜日の昼食利用、大家さんと連絡を取るなど地域生活への支援を継続的に行ってきた。また、施設入所となった方への支援については数回の関係者会議を開催した。

⑤ 金銭管理の支援

金銭管理の支援は5名の方を対象に行ってきた。うち4名はお金を預かり、面談を行いながら、日・週単位で生活費を渡し、もう1名は自己管理できているので月1回収支を見ての面談を行った。そのなかで、小平市社会福祉協議会地域権利擁護事業（1名）と保佐人（1名）を利用しての方については、連絡調整や面談時に同席して対応した。

⑥ 家事支援

6名の方を対象に、月一回程度一緒に部屋の掃除を行ってきた。その後、自分でできるようになった方もあり、必要に応じての支援を行った。うち1名については買い物、洗濯、着替えの準備ゴミの分別とゴミ出し、土日の夕食準備など、全面的な支援が必要のため対応してきた。

⑦ 手続きや申請の支援

自立支援医療や障害者手帳、福祉サービス受給者証の更新手続き、生活保護受給の方の収入認定、年金受給の申請などを一緒に行いながら、一人でできるように支援してきた。自己管理できている方については、更新時期が近づくと声掛けをするなどして確認を行った。1名については、全面的な支援が必要のため代理で対応してきた。

2. 個別支援計画の作成・モニタリング

ホーム入居中に生活していくうえでの必要な力をつけていくため、本人からの要望や目標を確認し個別支援計画を作成。また、実際に生活実態を把握するためのアセスメントも併せて行った日中活動先の個別支援計画や計画相談も理解したうえで、本人の力が出せるよう、モニタリングも行いながら支援計画に沿った支援を行ってきた。

3. 関係機関との連携

- ・計画相談窓口…地域生活支援センターあさやけ、障がい者地域自立生活支援センターひびき、地域生活支援センターウエルカム、あいさぽーと鷹の台居宅介護支援事業所
- ・日中活動先 …あさやけ第二作業所、サングリーン、小平福祉園、あとリエントン、デイサービスやすらぎ、山崎病院デイケア
- ・医療機関 …国立精神・神経医療研究センター病院、都立松沢病院、昭和大学鳥山山崎病院、多摩あおば病院、小平仲町クリニック
- ・訪問看護 …いつもそばに、ゆうしん、コルディアール東村山

関係者会議や計画相談の面談に同席。また、日常的にも関係機関とは連絡を取り合い情報共有に努めてきた。

III 運営

1. 入居者関係(年度内入居者9名/2021年3月31日現在)

① 入居者の状況

- ・性別 …男性7名、女性2名 ・市区町村…小平市7名、東大和市1名、清瀬市1名
- ・区分 …区分3-1名、区分2-5名(うち要介護1-1名)、区分1-3名
- ・年齢構成…20代2名、30代2名、40代1名、50代2名、60代1名、70代1名
- ・通所先 …あさやけ第二作業所3名(うち1名デイサービスやすらぎ)、サングリーン2名
小平福祉園1名、あとリエントン1名、就労2名
- ・入居前の状況…入院1名、家族同居7名、単身生活1名

② 入退居の状況

- ・202号室…2020年4月30日退去、2020年6月1日入居
- ・205号室…2020年8月14日退去、2020年10月15日入居

③ 入居者以外の支援

今年度は、コロナ禍のため外部からの夕食利用者はなし、昼食のみ年度内に卒業した方1名が利用。

2. 職員関係

① 職員の配置基準

4:1の職員体制のため1.7人の配置で以下のとおり。

- ・管理者(常勤世話人兼務)1名
- ・サービス管理責任者(他事業所兼務)1名
- ・非常勤世話人2名(常勤換算0.7)、代替職員数名

事務局は、管理者、あさやけ第二作業所、サングリーン(サービス管理責任者兼務)、地域生活支援センターあさやけから各1名が出席して毎月一回事務局会議を開催。

② 研修等

今年度研修は以下のとおり。

- ・小平市障がい者支援課主催「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを考える」(7/7)
- ・業務連主催「第24回精神保健福祉を考えるつどい」(11/28)
- ・R2年度小平市支援従事者向け障害者虐待防止法研修会(12/1)
- ・法人内研修「2020年度実践交流会」(12/12)

③ 健康管理・衛生管理

健康診断は、各自で実施。

3. 施設整備

- ・ホールのガスコンロ取替
- ・ホール換気扇取替工事(大家)
- ・全室蛇口取替(大家/手洗いしやすい蛇口に変更)
- ・202号室、205号室リフォーム(大家)

4. 防災関係

ナカムラ防災による消防設備の点検及び消防訓練を年2回実施(7/4、1/30)。

5. 第三者評価

評価機関である株式会社ウエルビーによる第三者評価を実施(10/1契約)。利用者調査(10/27)は全員アンケート方式で行い、訪問調査(11/20)では、事前資料と職員の自己評価結果、利用者調査結果を踏まえて、資料を閲覧してもらいながら対応した。

6. コロナウイルス関係

- ・R2年度東京都新型コロナウイルス感染症緊急包括支援交付金(402,000円)で空気加湿清浄機2台、衛生用品を購入、ハウスクリーニング代として支出。
- ・小平市障がい事業所等衛生用品・備品等購入補助金(100,000円)で衛生用品を購入。

7. 会議

- ・事務局会議(年11回)
- ・職員打合せ会議(年10回)
- ・施設長会議(年11回)
- ・法人内グループホーム会議(年1回)

8. 関係団体・地域との連携

- ・今年度、小平地域精神保健福祉業務連絡会の例会は、コロナ禍の影響で事務局会議2回(9/9、2/9)、例会2回(7/7、2/10)の開催となり出席、「第24回精神保健福祉を考えるつどい」(11/28)は参加者限定で開催し出席した。小平障害者連絡会、都ホーム連、きょうされん・きょうされん東京支部(グループホーム・生活施設部会)には引き続き加入し、メールで情報を共有した。
- ・「小平市精神障がいにも対応した地域包括ケアシステム連絡会」の準備会(6/26、8/28、10/16)と、その後の事務局(11/26、2/12)に携わり、第1回連絡会(11/4)、第2回連絡会(3/12)

に出席した。

- ・今年度も引き続き、小平市社会福祉協議会の賛助会に入会。
- ・虹ヶ丘第一自治会に団体加入。コロナ禍の影響でゴミゼロDAYや消防訓練等が中止となり、活動への参加はできなかった。

2020年度 共同ホームつくしんぼ事業報告

<共通>

1. 新型コロナウイルス感染症の感染予防対策と対応

- ・各ホームで検温、手洗い、換気、マスク着用等の基本的な対策を進め予防に努めた。
 - ・加湿器、食卓の飛沫防止パネル、換気用扇風機など必要な備品を整えた。
 - ・幸いにも各ホームとも発熱者が出た時以外は、普段どおりホームでの生活を送ることができた。

<具体的な対応事例>

- ① 2月入居者に発熱、検査結果が出るまで他の入居者は自宅に。(はやぶさ)
- ② 1月通所先の職員が陽性、作業所が閉じたので入居者全員が検査を受けて、日中もホームで過ごす体制を取る。(つくしんぼ)
- ③ 家族が濃厚接触者の疑いで、賃金補償をしてパート職員は自宅待機。(さらさ)
- ④ 1月入居者が自宅で発熱。検査を受けてもらい、3日後に陰性と判明。他の入居者は家族の判断もあり自宅で過ごす。(さらさ)

2. 各ホーム間の連携・応援について

つくしんぼ→はやぶさの食事づくり(月一回)、さらさに生活支援(週一回)
はやぶさ →つくしんぼの入浴援助(週一回)
さらさ →つくしんぼの生活支援(週一回)

3. ホーム職員対象の普通救命講習を小平消防署で受講。

4. ホーム職員学習会

アドバイザーに大正大学の児島先生を招いてはやぶさのケース検討を中心に実施。後日、児島先生にはホームを訪問していただいた。

5. 研修

東京都の虐待研修	仲川、田代
障害者グループホーム従事者基礎研修	田代、相田、村岡
職員のメンタルヘルスの学習会	田代
高齢者・認知症の理解についての学習会	村岡

6. 会議

ホーム全体会議を年度初めに開催。

各ホームでは、必要に応じて職員会議、個別支援計画の会議等を行ってきた。

7. 避難訓練 入居者も含めた避難誘導訓練を各ホームで実施した。

8. 第三者評価を受審。評価機関ウェルビー

<共同ホームつくしんぼ>

1. はじめに

コロナ禍の中で、入居者の命を守り、安心して生活を送れることを気にかけてきた年であった。7月から入浴援助ではやぶさ職員が週一回入り、2月から男性職員が配置された。その人の生活を支える支援を行うという視点で今年度も取り組んでいるが、コロナもありますます家庭状況を把握し踏み込まざるを得なくなった。

2. 入居者の状況(2021年3月31日現在)

- ・定員5名／現員5名（男性4名、女性1名）
- ・障害程度区分 区分3—1名、区分4—2名、区分5—2名
- ・入居年数と年齢 25年、15年、7年、6年、3年／60歳代1名、30歳代4名
- ・日中活動先 あさやけ作業所2名、あさやけ鷹の台作業所3名

3. 職員の状況

常勤職員1名、パート職員1名(土曜日の8時から14時勤務を月二回程度)だったので、多くの時間帯で世話人業務を「ひまわり」に業務委託して運営をしてきた。男性の入浴援助は、ユニットのはやぶさからの支援と居宅事業所のヘルパーで週二回だけ実施した。世話人 1名。パート職員1名(土曜日の8時から14時勤務、月に1から2回程度)。

来年度職員の体制を複数にすることもあり、2月からアルバイトで男性職員を採用した。

4. ホームの運営等

GW、作業所の夏休みは、家族の状況からホームでの生活が必要な人もいたので、ホームで過ごせるよう体制をとって対応した。年末年始は12月30日から1月4日の期間を閉じた。

その他、小遣い管理、移動支援のサポート、通院同行、後見人や権利擁護利用にともなう支援など生活支援全般に及んだ。

5. 施設整備、備品購入

お風呂のシャワー交換、食事の蜜を防ぐため食卓テーブル(長さ2メートル)と椅子を買換え

<共同ホームはやぶさ>

1. はじめに

開設8年目を迎えた。コロナ禍の支援では、手洗い遂行や手などが直接接触する場所等の消毒・洗浄及び拭き取り、毎起床時の及び帰宅時の検温など毎日の感染防止対策

を実施した。

2. 入居者の状況(2021年3月31日現在)

- ・定員7名 現員7名
- ・障害程度区分 区分4—2名 区分5—2名 区分6—3名
- ・平均年齢 38歳(30代5名、40代2名)
- ・日中活動先 あさやけ作業所4名、あさやけ風の作業所3名
- ・利用状況 月曜日の夕方～日曜日の朝の週6泊。(1名7泊の生活)

3. 職員の状況

常勤職員5名(男性) 8月末に1名退職、7月中旬に1名採用。

業務委託／夕食づくりをひまわりに委託(週6日、16時～18時)

4. ホームの生活及び運営について

①生活支援

本人の生活スタイルが尊重され、ゆったり安全に生活できるホームをめざし、本人のできる能力に依拠した支援を行った。具体的な生活支援／毎日の入浴・食事提供、就寝・起床の確認、衣類の着脱支援、服薬確認、歯磨き支援、家族・作業所との連絡調整、外出支援事業所・後見人との連絡調整など。

②健康のとりくみ

食後のブラッシングなど口腔衛生のとりくみ、バランスの良い食事提供、服薬の支援等

③休日の日中の過ごし方支援

作業所が休みの土曜日や祝日の日中の過ごし方について、一人一人に合った内容で支援をめざしてきた。ただし、今年度はコロナの影響で外出も難しい面があり、体制も含めて内容の検討が課題としてあげられる。

家族の協力の元、年数回入居者が一斉に帰宅することを行った。(GW、作業所の夏休、バザー前後、年末年始)今年度もホームでの生活のみになった入居者の支援は作業所職員にも協力してもらい特別支援態勢を組んで生活を支えた。

<共同ホームさらさ>

1. はじめに

今年度は新型コロナウイルス感染症流行の影響を受け、感染予防対策を丁寧に講じてきた。さらさは開設してから4年になったが、長く生活していく中で、それぞれの入居者なりの感じ方、とらえ方があるようで、安定した生活ぶりを見せる人もいる一方、コロナ感染症などの影響もあり、不安定さを増してイライラを募らせる場面が増えた人もいる。

2. 入居者の状況(2021年3月31日現在)

- ・定員6名 現員6名
- ・障害程度区分 区分4—2名、区分5名—2名、区分6—2名
- ・入居者の年齢 平均年齢43歳(50歳代2名、40歳代1名、30歳代3名)
- ・日中通所先 あさやけ作業所3名、あさやけ風の作業所3名

3. 職員の状況(2020.3.31現在)

常勤職員4名。

パート職員3名は、2名が交代で夕食づくり(週5日、15時から17時)、1名は生活支援業務(週3日、15時30分～19時30分)

その他、ひまわりに週1回の朝勤務(朝7時45分～10時)を業務委託した。

4. ホームの生活と運営について

- ①入居者の利用状況 基本は月曜日夕方から土曜日朝までの5泊6日。作業所が休みの祝日はホームで日中を過ごす。

②健康のとりくみ

- ・栄養バランスの取れた食事の提供、糖尿病腎症に対応した食事も提供。
- ・みその歯科による口腔内のリハビリを月一回ホームで実施。
- ・口腔内の衛生のため歯磨きのとりくみ。
- ・発作時の対応訓練として実地訓練を実施。
- ・入浴を楽しみしているため毎日入浴できるようにしている。